

斎藤春香委員からのコメント概要

(聴取：平成23年6月16日 弘前市内)

【一貫指導体制等について】

- 「一貫指導体制」というのは大切ですね。私も中学からソフトボールを始め、良き指導者に恵まれたおかげで高校、社会人とソフトボールを続けられました。
また、私が入社した頃の日立ソフトウェアのソフトボール部は創部から4～5年目のまだ弱小チームだったのですが、会社の理解もあり、大変よくしていただきました。結局24年間、選手・指導者としてお世話になりました。
「受け皿づくり」は容易ではないと思いますが、子どもたちが続けたいと思える環境と続けられる体制づくりができればと思います。

【アスリートネットワークについて】

- 私が今住んでいる神奈川県では、神奈川県ゆかりのアスリートによる「かながわアスリートネットワーク」(代表：山下泰裕)という社会貢献のための組織があり、私も参加しています。
アスリートたちが、子どもたちを対象としたスポーツ教室やスポーツに関するシンポジウムなどに率先して取り組み、地域におけるスポーツの振興や社会貢献に取り組んでいます。(別紙設立趣意書参照)
青森にもアスリートがたくさんいると思いますので、そのような活動を通じて、スポーツ振興などの社会貢献ができればと思います。

【競技場の整備について】

- 競技場にあこがれるという気持ちはわかります。あの場所を走ってみたいとか、あのスタジアムでプレーしてみたいとかという気持ちは、誰もが抱くと思います。身近に素晴らしい競技場があって、そこで行われる素晴らしいプレーを観ることがあれば、競技に興味を持ったり、さらに競技にのめり込んでいったりという効果が期待されるのではないのでしょうか。

【斎藤春香氏略歴】



弘前市出身。中学よりソフトボールを始め、弘前中央高時代に県選抜チームメンバーとして3年連続で国体出場。88年に日立ソフトウェアへ入社。五輪には96年アトランタ大会、00年シドニー五輪(銀メダル)、04年アテネ大会(銅メダル)と3大会連続で出場。04年には日立ソフトウェアの選手兼任監督を務め、05年に現役を引退。06年12月より日本代表監督に就任。北京五輪では3連覇中の米国を決勝で下し、日本を悲願の金メダルに導いた。11年7月より、弘前市教育委員会職員として活躍予定。

かながわアスリートネットワーク

【設立趣意書】

私達はスポーツに燃え、鍛え上げ、多くの人に支えられ、幸いにも、国際大会や国体等に出場し名声をあげることができました。この経験を、地元かながわの運動やスポーツの普及・啓発のために一致団結・協力し、還元することが非常に大切であると考えます。

折しも、神奈川県では、県民一人ひとりがそれぞれの体力や年齢に応じて、いつでも、どこでも、誰もが、いつまでも運動やスポーツに親しみ、健康で明るい生活を営むことができる生涯スポーツ社会の実現を目指して、様々な取り組みを行っております。

幸い本県は、国内はもとより世界に誇れるトップアスリートを数多く輩出しており、その県内スポーツ関係の著名人やプロスポーツ選手、あるいは国体出場選手などが結集し、「かながわアスリートネットワーク」を設立することにより、幅広くスポーツを通じた社会貢献を目指します。

平成20年1月14日

「かながわアスリートネットワーク」発起人

阿波野 秀 幸	江 藤 省 三	遠 藤 恵 子
大 橋 秀 行	奥 寺 康 彦	具志堅 幸 司
近 藤 欽 司	斎 藤 春 香	佐 藤 久美子
高 野 進	中 原 貴 子	成 田 真由美
福 嶋 晃 子	丸 山 由 美	三 好 智 弘
森 久 子	森 田 淳 悟	山 下 泰 裕
山 本 聖 子		